

ぎもの語り

浴衣篇

〇七・夏号
発行：松岡屋

浴衣の始まりは、平安時代。当時は蒸し風呂が主流で、水蒸気でやけどをしないように着た「湯帷子(ゆかたびら)」がもとだそう…。その後、裸で入浴するようになって、湯上がりに着る着物となりました。

浴衣サロン

その巻

した。それを「浴衣(ゆかた)」と呼ぶように…。
最近では、柄や素材のバリエーションが増え、お祭りや花火大会はもちろん、夏の着物としても大活躍しています！

花火大会は

夜の花火大会にはこんな鮮やかな浴衣もおススメ。レトロな朝顔の絵が夏気分を演出!! 半幅帯の結び方で印象を変えて。

浴衣ご購入の方にオリジナルうちわプレゼント

数に限りがあります。なくなってしまうたら、ごめんなさい。

鮮やかなスタイルで!

着物感覚で、

ちよつとお出かけ。

松岡屋



レースの半衿と足袋、ヒョウの名古屋帯を合わせて着物のようなコーディネートもステキ。青い帯締めがアクセント。



いろんな柄、揃えました。ブランドものを、いつものようにお安くおわけします。ぜひ、どうぞ。

訪問できません!!
呉服屋は訪問営業が多いようですが、突然家に来られても困られるのでは...? そこで松岡屋は、ご利用の際のフリーダイヤルを準備しております。必要とあれば、訪問させていただきます。お気軽にどうぞ。

0120-63-0618

